

35, カキノキ科の巨木 Ebenaceae

35-A カキノキ(柿の木)の巨木 カキノキ科カキノキ属

※カキノキの巨木は品種改良された品種がほとんどで、天然種ヤマガキと区別されるが、本書では品種如何に関わらずカキノキとして分類する。

■カキノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 4m 以上の単幹樹、同等評価か品種原木のカキノキの巨木。
- B 幹周おおむね 3~4m の単幹樹、同等評価か品種原木のカキノキの巨木。
- C B 評価以下のカキノキの巨木。

■主なカキノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	大町の西条柿 写真 KK-001	M4.25m(分岐 0.5m 2006)	17m	岡山県苫田郡鏡野町大町	町
A	川北の大柿 写真 KK-002	M4.8m(分岐 1.0m 2008)	12m	広島県庄原市川北町	なし
枯死	大屋の西条柿 写真 KK-003	3.7m	10m	広島県庄原市西城町大屋	県
B	中野のカキ 写真 KK-004	M3.5m(1.3m 2008)	9m	山梨県南アルプス市中野	県
B	柿ノ木稲荷のカキ	3.4m	15m	埼玉県児玉郡上里町神保原	町
B	奥谷の流れ柿 写真 KK-005	M3.1m(1.3m 2010)	18m	岡山県加賀郡吉備中央町上加茂奥谷	なし
B	五箇野田の西条柿 写真 KK-006	3.1m	15m	広島県庄原市総領町五箇	市
B	市倉のカキノキ 写真 KK-007	3.0m	17m	愛媛県西条市中野丙	なし
C	甘原の柿 写真 KK-008	M2.45m(1.3m 2008)	9m	岐阜県多治見市甘原	県
C	山岡の枝垂柿 写真 KK-009	M2.45m(1.3m 2008)	15m	岐阜県恵那市山岡町字馬場山田 363-1	なし
B	八珍柿原木 写真 KK-010	2.03m	16m	新潟県新潟市秋葉区古田	県
C	黒地の柿の木 写真 KK-011	不明	不明	長野県伊那郡根羽村黒地	なし
B	庄内柿原木 写真 KK-012	不明	不明	山形県鶴岡市鳥居町	市



◀写真 KK-003
枯死・大屋の西条柿
(写真・Web 画像)



写真 KK-006▶
五箇野田の西条柿
(写真・Web 画像)



◀写真 KK-001 日本一のカキノキ
おおまち さいじょうがき
大町の西条柿

地上1mで主幹と側幹に分岐する樹形で、側幹は斜上し、先端は折れて地面に着く。側幹の反対側には、水平に伸びる3本の大枝がある。幹周は地上0.5mの測定値で、公表値4.5mは、地上1.3mあたりの主幹と側幹の合計幹周か。墓石が10基程根元に並び、墓標として植えられたものか。



▲写真 KK-002
かわぎた おおがき
川北の大柿

落雷によって主幹根元は半壊し、空洞化している。1mで2分岐し、細い側幹も斜上する。巨木DB幹周5.7mは分岐幹3本の合計周と思われる。M式では、分岐幹として取扱う。それでも、大町の西条柿より数字が大きくなるが、主幹半壊で二位にした。



▲写真 KK-004

中野のカキ

えぶく種で、実は小型。主幹半壊する。



▲写真 KK-005

奥谷の流れ柿

実は小さく枝垂れ柿である。主幹内部分は空洞化している。



▲写真 KK-007

市倉のカキノキ

(写真・Web画像)



▲写真 KK-008

つづはら
甘原の柿



▼写真 KK-009
やまおか しだれがき
山岡の枝垂柿

▼写真 KK-010

はっちゃんがきげんぼく
八珍柿原木

山県では庄内柿、佐渡ではおけさ柿と呼ばれる種無し品種。(写真・Web画像)



▼写真 KK-011

黒地の柿の木

(写真・Web画像)



▼写真 KK-012

しょうないがきげんぼく
庄内柿原木

(写真・Web画像)



36, モクセイ科の巨木 Oleaceae

■モクセイ科の巨木は以下に分類する。

- A キンモクセイの巨木(ウスギモクセイの巨木含む)
- B ギンモクセイの巨木
- C ヒイラギの巨木
- D ヤチダモの巨木

36-A キンモクセイ(金木犀)の巨木 モクセイ科モクセイ属

※植物分類ではギンモクセイの変種がウスギモクセイであるが、キンモクセイとウスギモクセイの花がよく似ていて、混同されてきた。よって本書では、キンモクセイ・ウスギモクセイの巨木を分類しない。

■キンモクセイ(ウスギモクセイを含む)の巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3.5m 以上の単幹樹、同等評価のキンモクセイの巨木。
- B 幹周おおむね 2~3.5m の単幹樹、同等評価のキンモクセイの巨木。
- C B 評価以下のキンモクセイの巨木。

■主なキンモクセイ(ウスギモクセイを含む)の巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	麻生原のキンモクセイ 写真 KM-001	M3.78m(1.3m 2012)	13m	熊本県上益城郡甲佐町麻生原	国
A	三嶋大社のキンモクセイ 写真 KM-002	M4.0m(分岐 0.2m 2008)	10m	静岡県三島市大宮町	国
A	願成就寺のモクセイ 写真 KM-003	5.5m(分岐 1.3m)	11m	宮崎県日南市今町 1-5-35	市
B	龍禅寺のキンモクセイ 写真 KM-004	3.6m(分岐)	15m	茨城県取手市米ノ井 467	なし
B	祖母島のキンモクセイ	3.1m(分岐)	8.5m	群馬県渋川市祖母島 680	県
B	往至森寺のキンモクセイ 写真 KM-005	M2.5m(分岐 0.5m 2012)	8m	愛媛県西条市飯岡 3021	国
B	観音堂の金木犀 写真 KM-006	株周 2.6m(0.3m)	13m	高知県土佐郡土佐町中島	町
B	高樹神社のキンモクセイ 写真 KM-007	株周 3.1m	14m	福岡県八女市星野村	市
B	杉岳区のキンモクセイ 写真 KM-008	M2.2m(1.3m 2012)	15m	佐賀県武雄市北方町杉岳区	なし
枯死	宇佐大元神社のキンモクセイ 写真 KM-009	2.85m	17m	広島県山県郡安芸太田町坪野宇佐	
倒木	永明寺のキンモクセイ	3.3m	16m	群馬県邑楽郡邑楽町中野 2933	国



◀写真 KM-003
願成就寺のモクセイ
ウスギモクセイの巨木で、1m 程で多数に分岐する樹形。
(写真・石田徹)



◀写真 KM-004
龍禅寺のキンモクセイ
(写真・Web 画像)



◀写真 KM-001 日本一のキンモクセイ

あそうばる
麻生原のキンモクセイ

2012年9月まで、日本一のキンモクセイは静岡県「三嶋大社のキンモクセイ」であった。地上0.5m付近で3分岐する樹形ではあるが、幹周M4.0m(分岐0.2m)という大きさ。大きな特徴はその樹形にあり、まるで枝垂れキンモクセイ。先端は地面に着く程枝垂れ、実に圧巻の樹形である。ところが、最近になってその内の一本が折れ、樹形が変わった。樹種はウスギモクセイである。

2012年10月に、熊本県の幹周3mの単幹日本一と言われていた「麻生原のキンモクセイ」を調査すると、幹周M3.78mもある事が判明した。樹高も13mもある堂々たる樹形で、樹下にある観音堂が小さく見える程伸びやかに枝葉を広げている。単幹樹であるにもかかわらず、幹周が大きく、樹形も雄大なことから日本一に認定した。これも樹種はウスギモクセイである。



写真 KM-002▶

みしまたいしゃ
三嶋大社のキンモクセイ

根元近くで3分岐していたが、手前の幹が切断された。



◀写真 KM-005

おしもりじ
往至森寺のキンモクセイ

主幹は空洞化している。



▲写真 KM-007

高樹神社のキンモクセイ

(写真・Web画像)



▲写真 KM-006

観音堂の金木屋

(写真・Web画像)



写真 KM-00▶

枯死・宇佐大元神社のキンモクセイ

(写真・Web画像)

◀写真 KM-008

杉岳区のキンモクセイ

大聖寺のイヌマキへ至る県道沿いに立つ単幹樹である。



36-B

ギンモクセイ(銀木犀)の巨木

モクセイ科モクセイ属
Osmanthus fragrans

■ギンモクセイの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3.5m 以上の単幹樹、同等評価のギンモクセイの巨木。
- B 幹周おおむね 2~3.5m の単幹樹、同等評価のギンモクセイの巨木。
- C B 評価以下のギンモクセイの巨木。

■主なギンモクセイの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	吉田のギンモクセイ 写真 GM-001	M3.2m(0.3m 2010)	12m	広島県三原市久井町吉田 72	県
B	光照寺のギンモクセイ 写真 GM-002	3.5m(分岐)	10m	新潟県糸魚川市蓮台寺 1-10-3	市
B	米島家のギンモクセイ	3.5m(分岐)	16m	富山県下新川郡入善町下飯野新 57	なし
B	岩城邸のギンモクセイ	3.0m(分岐)	12m	富山県滑川市野尻 68	市
B	少林寺のギンモクセイ 写真 GM-003	M2.5m(1.0m 2014)	12m	滋賀県守山市矢島町 1228	市
B	翠小学校のギンモクセイ 写真 GM-004	2.5m(分岐)	9.5m	愛媛県伊予市双海町上灘	市
B	妻籠のギンモクセイ 写真 GM-005	M1.5m(分岐 0.5m 2013)	8m	長野県木曾郡南木曾町	県
B	立山寺のギンモクセイ(2 本) 写真 GM-006	2.5m(2 本共同値)	10m	富山県上市町眼目 1-22	町
B	長久寺のギンモクセイ A 株 写真 GM-007	M3.58m(分岐 0.8m 2009)	9m	石川県金沢市寺町 5-2-20	なし
C	種月寺のギンモクセイ 写真 GM-008	株周 3.7m	7m	新潟県新潟市西浦区石瀬	市
枯死	倉田八幡宮のギンモクセイ 写真 GM-009	5.0m(分岐)	15m	鳥取県鳥取市馬場 299	国



◀写真 GM-001 日本一のギンモクセイ

吉田のギンモクセイ

民家の前庭にあり、根元上部で7分岐していたが、お互いに融合して単幹樹になっている。多くのギンモクセイの巨木は、根元近くで分岐するものが多い。M式では、最もくびれだ部分を測定するので、公表値は1.3m地点を測定しているため、大きな数字が出ている。吉田のギンモクセイの場合も、1.3m地点の幹周は4.2mあり、日本一である事が明白である。



写真 GM-002▶

光照寺のギンモクセイ

(写真・Web 画像)



▲写真 GM-003
 少林寺のギンモクセイ
 1.5m 付近に継木をした珍しい
 ギンモクセイ。



▲写真 GM-006
 立山寺のギンモクセイ
 2 本あり、ほぼ同じ大きさであ
 る。(写真・Web 画像)



▲写真 GM-004
 翠小学校のギンモクセイ
 (写真・Web 画像)



▲写真 GM-007
 長久寺のギンモクセイ A 株
 9 分岐する樹形。



▲写真 GM-008
 種月寺のギンモクセイ
 根元分岐樹形(写真・石田徹)



▲写真 GM-005
 妻籠のギンモクセイ
 妻籠宿のはずれ、民家の庭先に立ち、大
 小 2 分岐する。



▲写真 GM-009
 枯死
 倉田八幡宮のギンモクセイ
 (写真・Web 画像)

36-C ヒイラギ(栲)の巨木

モクセイ科モクセイ属
Osmanthus heterophyllus

※ヒイラギモクセイはヒイラギとキンモクセイの雑種とされるが、根拠が曖昧。ヒイラギは巨木になると、葉が全縁になり、キンモクセイの葉に似る事から、誤解されたものも存在すると推測される事から、本書では、ヒイラギモクセイを分類しない。

■ヒイラギ(ヒイラギモクセイを含む)の巨木評価基準

- A 幹周おおむね 5m 以上の単幹樹、同等評価のヒイラギの巨木。
- B 幹周おおむね 3~5m の単幹樹、同等評価のヒイラギの巨木。
- C B 評価以下のヒイラギの巨木。

■主なヒイラギの巨木

2015 年現在
 評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	下坪のヒイラギ 写真 HR-001	M5.55m(分岐 0.3m 2012)	8m	栃木県矢板市安沢字山根	市
B	堂の下の大ヒイラギ 写真 HR-002	株周 M5.5m(0.2m 2010)	12m	千葉県香取市長山	市

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	城福寺のヒイラギ 写真 HR-003	2.2m	12.6m	福井県越前市五分市町	市
B	長栄寺のヒイラギ 写真 HR-004	3.5m	13m	長崎県雲仙市国見町神代丙	県
B	黒俣のヒイラギ 写真 HR-005	3.8m	12m	静岡県静岡市葵区黒俣字峰山	県
B	琴海のヒイラギ 写真 HR-006	3.6m	10m	長崎県長崎市琴海戸根町	県
B	雁田のヒイラギ 写真 HR-007	3.6m(分岐)	10m	長野県上高井郡小布施町雁田	県
B	船生のヒイラギ 写真 HR-008	M2.9m(1.3m 2007)	12m	栃木県塩谷郡塩谷町船入	県
C	善夫のヒイラギ 写真 HR-009	2.4m	8.5m	愛知県新城市作手善夫	市
C	東尾のヒイラギ 写真 HR-010	2.0m	9m	愛知県豊田市夏焼町	市
B	今開発の大ヒイラギ 写真 HR-011	M3.35m(分岐 0.3m 2008)	10m	富山県射水市今開発 566	県
C	長安寺のヒイラギ 写真 HR-012	株周 M3.8m(0.2m 2012)	13m	岩手県大船渡市日頃市町	なし
C	長畑のヒイラギモクセイ 写真 HR-013	2.8m	9m	栃木県日光市長畑 522-2	県
C	雙林寺のヒイラギモクセイ 写真 HR-014	4.3m(分岐)	10m	群馬県渋川市中郷 2399	市
B	行念寺のヒイラギモクセイ 写真 HR-015	M3.3m(1.3m 2009)	8m	石川県鳳珠郡能登町当目 38-207	町
B	淡沢のヒイラギモクセイ 写真 HR-016	3.35m	5m	山梨県北杜市長坂町淡沢 908	町
C	立正寺のヒイラギ 写真 HR-017	M4.3m(分岐 0.5m 2008)	5m	山梨県甲州市勝沼町山	町



◀写真 HR-001

しもつば 下坪のヒイラギ

ヒイラギは寺社等に好まれて植えられる樹木で、日本では福島県以西の山地に自生する。葉の鋸歯が刺になり痛い。しかし、老木になると刺が無くなる傾向がある。各地に老木が知られているが、いざ日本一はと考えると、群を抜いたものが見当たらない。環境省に報告例は30件程で、幹周6~7mの大きな記録のあるものが3本あるが、これらを調査すると、全て分岐幹の合計周か、測定ミスで巨大化されたものと判明して、日本一のヒイラギが決定されないでいた。

記録にないヒイラギで、千葉県香取市の「堂の下のヒイラギ」は、株周5.50m、根元で2分岐する樹形。これが日本一かと思われたが、2012年、栃木県矢板市で株周5.55mの「下坪のヒイラギ」を確認し、これが現在日本一と考えられる。

主幹は1mで3分岐し、幹は空洞化しているものの、樹勢は旺盛のようだ。主幹は波打ち、苔むし、着生したタチツボスミレが花をつけ、古木の風格漂う見事なヒイラギである。

所有者である松井氏に何うと、この地に定着して現在で19代目という。樹齢800年ということであったが、うなづけるものであった。天然記念物指定時、この地は下坪と称していたという。



◀写真 HR-002

堂の下の大ヒイラギ

堂の下というのは、お寺さんのお堂の下という意味である。根元に氏神様が祀られる小さな祠があり、このご神木として植えられたという。長山地区では、ヒイラギをご神木として植える風習があり、近所の香取家にもかつて幹周5.5mのヒイラギの巨木があったという。

根元で2分岐し、畑側の幹は1.5mで2分岐、幹は空洞化が進んでいる。堂側の幹は1.2mで2分岐するが、1本が折れている。これは1996年の台風で折れたという。かつてもう一本あり、全体に5分岐する樹形であったという。根元周囲が5.5mあり、分岐幹の幹周はそれぞれ約3mである。葉には独特の鋭い鋸歯はなく、古木である事を物語っている。



写真 HR-003▶

城福寺のヒイラギ

寺の中庭いっばいに樹冠を広げる見事なヒイラギである。



▲写真 HR-004

長栄寺のヒイラギ

(写真・Web画像)



▲写真 HR-005

黒俣のヒイラギ

(写真・Web画像)



▲写真 HR-006

琴海のヒイラギ

(写真・Web画像)



▲写真 HR-007

雁田のヒイラギ

(写真・石田徹)

▼写真 HR-008

船生のヒイラギ

1.5mで3分岐する。

▼写真 HR-009

善夫のヒイラギ

(写真・石田徹)

▼写真 HR-010

東尾のヒイラギ

(写真・石田徹)

▼写真 HR-011

今開発のヒイラギ

1.5mで数分岐する。





▲写真 HR-012
 長安寺のヒイラギ
 根元で3分岐する。



▲写真 HR-013
 長畑のヒイラギモクセイ
 (写真・Web 画像)



▲写真 HR-014
 雙林寺のヒイラギモクセイ
 (写真・Web 画像)



▲写真 HR-015
 行念寺のヒイラギモクセイ



◀写真 HR-016
 渋沢のヒイラギモクセイ
 (写真・Web 画像)



写真 HR-017▶
 立正寺のヒイラギ
 根元近くで2分岐、半壊する。

36-D ヤチダモの巨木

モクセイ科トネリコ属
F. mandshurica var. *japonica*

■ヤチダモの巨木評価基準

- A 幹周おおむね6m以上の単幹樹、同等評価のヤチダモの巨木。
- B 幹周おおむね4~6mの単幹樹、同等評価のヤチダモの巨木。
- C B評価以下のヤチダモの巨木。

■主なヤチダモの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	地藏ヤチダモ 写真 YD-001	M5.75m(1.3m 2015)	30m	新潟県妙高市杉野沢 地藏山国有林	なし
B	一本タモ 写真 YD-002	M6.95m(1.3m 2008)	8m	青森県つがる市稲垣町豊川	市
B	新堀八幡のタモ 写真 YD-003	5.6m	16m	秋田県大仙市大曲西根新堀	なし
B	開拓記念木 写真 YD-004	4.8m	22m	北海道上川郡剣淵町市街地本町	町
B	飯豊山のヤチダモ 写真 YD-005	4.65m	34m	山形県西置賜郡小国町小玉川	なし
B	美岬のヤチダモ 写真 YD-006	4.6m	37m	北海道網走市能取岬	なし
B	西ノ湖のヤチダモ 写真 YD-007	不明	不明	栃木県日光市中宮祠	なし



◀写真 YD-001 日本一のヤチダモ

じぞう
地蔵ヤチダモ

地蔵山国有林内、単幹カツラの巨木「地蔵カツラ」のすぐ隣に立つ事から命名。6mで2分岐、荒々しい樹肌で、主幹下部は空洞化している。ヤチダモは識別が難しい樹木で、未発見の天然巨木がまだ存在する可能性が高く、暫定だが日本一に選定した。



▲写真 YD-002

一本タモ

幹周の数字の上では大きく、地元では日本一としている。しかし、現在の樹形は小さくなっている。



▲写真 YD-003

新堀八幡のタモ

(写真・Web 画像)



▲写真 YD-004

開拓記念木

(写真・Web 画像)



▲写真 YD-005

いいでさん
飯豊山のヤチダモ

(写真・Web 画像)

▼写真 YD-006

みさき
美岬のヤチダモ

(写真・Web 画像)



▼写真 YD-007

にしのか
西ノ湖のヤチダモ

(写真・Web 画像)



37, ムラサキ科の巨木 Boraginaceae

37-A チシャノキの巨木 ムラサキ科チシャノキ属

※本書では、変種のヒロハチシャノキの巨木を分類しない。

■チシャノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 6m 以上の単幹樹、同等評価のチシャノキの巨木。
- B 幹周おおむね 4~6m の単幹樹、同等評価のチシャノキの巨木。
- C B 評価以下のチシャノキの巨木。

■主なチシャノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	太宰府天満宮のチシャノキ 写真 CS-001	M6.5m(1.3m 2009)	15m	福岡県太宰府市宰府 4 丁目	国
B	仁井田のヒロハチシャノキ 写真 CS-002	4.8m	16m	高知県高岡郡四万十町魚ノ川	国
B	敬川八幡宮跡のチシャノキ 写真 CS-003	4.0m	10m	島根県江津市敬川町	市
B	山内のチシャノキ 写真 CS-004	4.0m	11.5m	福岡県八女市山内 544	県
C	矢掛のチシャノキ 写真 CS-005	3.3m	12m	岡山県小田郡矢掛町西川面	町
C	光明寺のチシャノキ 写真 CS-006	2.47m	13.7m	福岡県太宰府市宰府 2 丁目 1100	市
伐採	舟山八幡宮のチシャノキ	2.9m	7m	山口県山口市仁保下郷 3341	県



◀写真 CS-001 日本一のチシャノキ

太宰府天満宮のチシャノキ

ヒロハチシャノキである。本殿の裏、奥まった西側の門近くにあり、落雷で主幹を失い、ベルトを巻かれ、支柱で支えられ、満身創痍の状態である。いったい樹齢はどのくらいのものか、想像を絶する太さである。太宰府天満宮の歴史を考えてみても、創建当時からあった可能性すら感ずる。



写真 CS-002▶
仁井田のチシャノキ
(写真・石田徹)